

〈中国文学と日本漢詩文の研究〉

〔キーワード:魏晋南北朝、詩歌、文学思想、日本漢詩文〕

准教授 大村和人

〈主要研究業績〉

【著書】

- ・[単著]大村和人『六朝艶詩研究』(中国文庫、2023)
- ・[共著]紫陽会編『大沼枕山『歴代詠史百律』の研究』(汲古書院、2020)
- ・[共著]竹田晃 主編『中国文化事典』(丸善出版、2017)

【直近5年間に発表した主な研究論文】(以下、全て単著)

- ・大村和人「明代の西湖における「洛神賦」—袁宏道の「西湖」其一をめぐって—」(『大上正美先生傘寿記念 三国志論集』[汲古書院、2023])
- ・大村和人「森春濤の「阿波風土詩」をめぐって」(徳島大学総合科学部『言語文化研究』30、2022)
- ・大村和人「齊梁艶詩における「中人」について」(『石川忠久先生星寿記念論文集 菊を採る東籬の下』[汲古書院、2021])
- ・大村和人「晩唐・李商隠「代魏宮私贈」「代元城吳令暗爲答」試論」(『三国志研究』16、2021)
- ・大村和人「日本漢詩に描かれた鳴門海峡」(徳島大学総合科学部『言語文化研究』28、2020)
- ・大村和人「梁簡文帝蕭綱・三月三日「率爾」詩の「遊戯」性について」(『六朝学術学会報』21、2020)
- ・大村和人「大沼枕山の文学世界における曹植「洛神賦」」(『狩野直禎先生追悼三国志論集』[汲古書院、2019])

〈プロフィールと研究の概要説明文〉

【プロフィール】

- 2006年4月:東京大学文学部助手(2007年4月から助教)
- 2009年4月:高崎経済大学専任講師(2012年4月から准教授)
- 2009年9月:博士学位取得(東京大学大学院)
- 2018年4月:徳島大学教養教育院准教授(現在に至る)

【研究の概要】

大別して2種類の研究を行っている。第1は中国の魏晋南北朝期を中心とする時代の詩歌と文学思想、第2は日本の江戸～大正期を中心とする時代の漢詩文である。

魏晋南北朝時代の文学は、中国だけでなく日本の奈良時代以降の文学にも大きな影響を与えたにも関わらず、その実態は日中両国で十分に理解されているとは言えない。中国だけでなく、日本の文学の理解のためにも、魏晋南北朝期の詩歌とそれを支えた思想の総合的な解明を目指している。

平安時代以降、日本人は数多くの漢詩文を制作しており、もはや漢詩文も「日本文学」の1ジャンルと言ってよい。それにも関わらず、日本人による作品の多くはまだ手付かずである。江戸や近畿の詩人の作品だけでなく、近年は、阿波・徳島を舞台とした漢詩や、当地の漢詩人の作品も取り上げ、実態の究明に取り組んでいる。

分野:中国文学、日本漢詩文

専門:中国文学、日本漢詩文

E-mail: oomura.kazuhito@tokushima-u.ac.jp

Tel. <電話番号088-656-7163>

HP : <https://researchmap.jp/hdacun>

<http://pub2.db.tokushima-u.ac.jp/ERD/person/337278/work-ja.html>